

令和7年度高鷲文化財保護協会・県外研修

令和7年11月2日(日)に今年の県外研修旅行が行われた。参加者は、水上会長、山下副会長をはじめ総勢8名の参加者で、市役所の文化財担当職員藪島秀則氏運転のマイクロバスに乗った。行程は、高鷲～滋賀県野洲市歴史民俗博物館(学芸員の説明あり)～道の駅竜王(昼食)～長浜市高月町向源寺(観音堂十一面観音立像)～高鷲の予定で、高鷲振興事務所を7時30分に出発、東海北陸道・東海環状自動車道を通り、名神高速道の八日市ICで降り、最初の研修地野洲市歴史民俗博物館へ向かった。東海環状自動車道を利用すると滋賀県は意外に近く感じられたが、八日市ICを下りると道路は渋滞しており、野洲歴史民俗博物館へは予定の時間より少し遅れて到着した。



博物館では、学芸員の斎藤慶一氏の出迎えを受け、早速研修室へ案内された。研修室では野洲市古文書解説会の会員の皆さんが、私たちの到着を待っておられ、私たちが着席すると、斎藤学芸員の講演が始まった。講演内容は東氏と千葉氏、三上藩の遠藤氏と藩士鷲見氏、三上藩陣屋跡、妙見宮、近江最大の百姓一揆である天保一揆、など郡上市との関連を含めて丁寧な説明であった。

講演後に、水上精榮会長の高鷲文化財保護協会について挨拶と説明、筆者(馬淵)から、郡上八幡における遠藤氏の動きについて次のような補足説明があった。

「関ヶ原の役に西軍に与した稲葉貞通は、豊後臼杵に移され、旧主遠藤慶隆(盛数の嫡男)が27,000石を賜り、城主に返り咲いた。しかし、元禄5年に遠藤常久が7歳で没して改易となるが、大垣藩戸田氣一門の戸田胤親が養子となりお家再興となった。元禄11年、遠藤胤親が近江滋賀・野洲・甲賀・栗太郡内で1万石を与えられ、野洲郡三上に陣屋を構えた。遠藤氏は、美濃郡上八幡城主であったが元禄5年に常久没後改易となったが、その後、遠藤氏は、大番頭として二条城・大坂城在番を務めている。天保8年に起きた大塩平八郎の乱では、三上藩5代胤統が、玉造口定番として乱の鎮圧に功があった。明治3年に最後の藩主胤上から和泉吉見へ陣屋を移した。」





野洲市歴史民俗博物館は、愛称「銅鐸博物館」。銅鐸を紹介。野洲市内で出土した銅鐸を中心に展示。野洲の歴史と文化を紹介している。日本最大級という、高さ 134.7cm の輝く銅鐸の復元品は必見。隣接する弥生の森歴史公園には竪穴住居や高床倉庫があり銅鐸は、1881 年に 14 個、1962 年に 10 個、小篠原の大岩山から発見された。その中には、高さ 134.7 センチ、重さ 45.47 キログラムと日本一の大きさを誇る巨大な銅鐸もあった。歴史民俗博物館（愛称：銅鐸博物館）は、日本古代史の謎とされる「銅鐸」の謎解明に迫る日本初の博物館であった。そして、日本一の銅鐸の前にて記念集合写真を撮る。

銅鐸記念館の研修後、三上山をご神体とする御上神社を参拝し、竜王町お道の駅にて昼食を取る。その後、再び名神高速道路及び北陸道を通って長浜市の向源寺に向かった。向源寺に着く頃には雨が降り出したが、駐車場から本堂まで走って向かった。

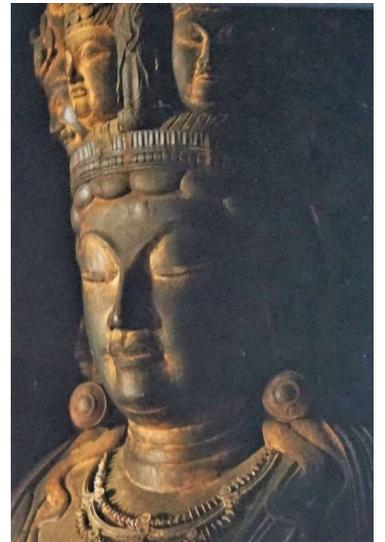
滋賀県長浜市高月町の向源寺には、日本が誇る国宝指定の十一面観世音菩薩像、国の重要文化財である阿弥陀如来座像、大日如来座像が安置されている。



渡岸寺観音堂は、慈雲山光眼寺と申し天台宗のお寺であった。今から凡そ 1300 年前、聖武天皇の天平 8 年に奈良の都をはじめ各地に疱瘡が蔓延し、死者が相次ぎ人々の苦しみは大変なものであった。天皇は、いたくお心を悩まされ、当時、加賀の白山で修行した高僧・泰澄に除災招福を勅命されました。勅を奉じて泰澄は祈りを込めて十一面観世音を刻み、一字を建て、観音法を修し息災延命、万民豊樂の祈禱をこらしてその憂いを断つたと伝えられている。それ以来病除けの靈験あらたかな観音として信仰され、桓武天皇の延暦年間には比叡山の伝教大師（最澄）



が勅を奉じて七堂伽藍を建立して、多くの仏像を安置した。寺領も 273 石あった。しかし、寺運は栄枯盛衰甚だしく、約 450 年前の元龜元年、浅井・朝倉の兵と織田軍との姉川合戦で、戦火を浴び、お寺は全て焼けてしまった。観音様を敬う村人たちは兵火が堂宇を襲うや猛火をおかして観音様を運び出し土中に埋めて難を免れたと言われている。戦のあと井口弾正によって、お堂を立て安置し、寺領は没収されたが、観音様は村人達の氏仏として敬われ、慈雲山光眼寺の法灯は護られた。明治 21 年宮内庁臨時全国取調局の九鬼隆一氏やフェノロサなど数名が調査に訪れ、観音様が日本屈指の尊像と賞賛され、明治 30 年に模範とすべき



特別国宝に指定された。観音様は全国的に注目されるようになったが、お堂は老朽化が甚だしくとても酷い状態であった。それで本堂の再建運動が起こり、この地域や近畿一円の人々や全国から、また小川清平氏が名古屋で開いた観音講の方々の浄財のおかげで大正 14 年に平安様式を取り入れた新しい本堂と庫裏が完成した。村で護ってきた観音様は国宝に指定されるまで、村の共有物だったが、公式として村では国宝の観音様を所有できず、世話になっていた向源寺に所属させた。今日では渡岸寺観音堂（向源寺）と呼ばれている。

十一面観音立像を拝観後、一路高鷲に向かったが、帰路は北陸道を通り福井北 JC から中部縦貫道へ入り、油坂峠を越えて高鷲へ向かった。途中連休中の真ん中の休日と北陸高速道路の工事と重なって車が多く、高鷲振興事務所に着いたのは夜の 8 時過ぎ、運転手の蓑島さんお疲れ様、有難うございました。参加された皆さんご苦労様でした。

（なお、写真は銅鐸記念館及び向源寺 HP から引用しました。）